

書物と友になろう！

幸せ運ぶアト一鳥

十月のテーマ

書物という友



え・浅妻健司

隙間時間を 読書にあてる

経 営者モーニングセミナーの
テキストとして親しまれて
いる『万人幸福の栞』の著者・丸
山敏雄は、大変な読書家でした。

その蔵書は、東京都武蔵野市に
ある倫理資料館に「丸山敏雄記念
文庫」として保存されており、約
三五八〇冊に及びます。丸山敏雄
は大きな転機のために、保有して
いた書物を散逸したため、記念文
庫にあるものは、実は生涯に読ん
だ本のごく一部となります。

残された蔵書のうち、約三四〇
冊は伝記類です。かつて丸山敏雄
は、知人に伝記を読むことを次の
ように勧めていました。

「どういう方面の人物でもよい。
成功者でも失敗者でも、すべてが
先輩の尊い体験の報告であり、身
をもつて行なったよき教訓である。
(中略) 困苦にぶつかって百折不
倒、克苦奮闘、ただ一貫不断の努
力のみが人に成功の栄冠を与える
ものであるという人生哲学は、人
物の伝記を読むと自ら打ち立てら
れてくる。そしてまた、書中の
人物のすさまじい努力が、いつも

自分を激励してくれる。ある時は
我が友となり、ある時は我が師と
なつて、いつもいつも教え励まし
てくれる」(『丸山敏雄伝』より)

試練は、その人を成長させるた
めに起きるともいわれます。それ
らに打ち勝つてこそ、充実した人
生を得られるのです。人生や仕事
の上に突然襲いかかってくる困難
な問題を乗り越えるには、その心
構えや生き方のモデルが必要にな
る時があります。伝記は、チャン
スをつかむヒントを私たちに示し
てくれる存在でもあるのです。

読書によって得られる効果は、
知識の取得、人格の形成、暮らし
のすじみちの発見など様々です。
自分の仕事や趣味に関連したもの
だけでなく、知人や尊敬する人た
ちから勧められた書物にもチャレ
ンジしたいものです。普段は関心
を持たない分野であれば、良い機
会だと捉えましょう。積極的に親
しむことによつて、新たな発見や
世界観が広がり、今までになかつ
た楽しみにもつながります。
世間で評判の高い本は、たとえ、

(自分には必要がないだろう)と
感じたとしても、あえて読んでみ
ることも大切です。

丸山敏雄は「いい本のある書店
の前を通りかかると、何かしら匂
うような気がする。酒好きが酒の
匂いに敏感なように」と述べてい
ます。文学、芸術、伝記、宗教、
倫理、哲学……と広範多岐にわた
る読書習慣が、良書を見分ける力
を磨き、やがては生活法則のエッ
センスをまとめた『万人幸福の栞』
を誕生させることにもつながつて
いったのです。

*

読書ができる時間をじつくりと
取れることが一番の理想でしょう。
しかし、それが不可能であっても、
仕事の合間の休憩時間や移動時間、
就寝前や朝食後から家を出るまで
の間など、わずかな隙間時間を利用
して、書物に親しむ習慣を身に
つけたいものです。
書物は、たった一度しかない私
たちのかけがえのない人生を、よ
り充実させサポートしてくれる頼
もしき友であり師匠なのですから。